

2022 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2022 年 12 月



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2022 年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は 235 名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。「社会経済活動の維持」と「感染拡大の防止」の両立を図るなか、学生はそれぞれの経験を通して社会人基礎力を身に付けたことを確信しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度のインターンシップ事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

長期プロジェクトコース 総合コーディネーター
桜沢 隆哉
京都女子大学 法学部 教授



長期プロジェクトコースでは、受入先企業・団体が提供するプロジェクトの最終目標を達成するため、学生が主体的に「計画」を立て、それを「実行」していきます。とくに実行する過程では想定外の困難に直面し、計画の甘さや実行力など様々な課題も明らかになってきます。この課題に気付くことこそが自分自身が成長するきっかけになるのだと考えています。

今年度も長期にわたるプロジェクトで学生を受け入れて下さった受入先企業・団体に感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

ビジネスコース 総合コーディネーター
多田 実
同志社大学 政策学部 教授



コロナ禍による混乱が続く中、おかげさまで、今年度も受講生の成長が実感できるプログラムになりました。インターンシップが就職活動に直結している「就活前哨戦」のような感覚で捉えている学生が増えている昨今ですが、本プログラムでは、当初から一貫して「教育プログラム」であることを念頭に置いており、単なる「社会人体験」ではなく受講後の学生生活を考える一助となることを願っております。今後とも皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

パブリックコース 総合コーディネーター
古川 秀夫
龍谷大学 国際学部 教授



パブリックコースでは、公共性や社会貢献を志向した実習プログラムが地方自治体や非営利組織から提供されています。受講生は、実習を通して公務員やNPO 職員へのキャリア意識を醸成するにとどまらず、市民の一員として享受する行政サービスの重要性やNPO の存在意義なども認識します。近い将来どんな職業に就いたとしても、受講生の全てが公共心あふれた善き市民になることを強く念願し、確信するものであります。

目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷……	1
第2章 2022年度インターンシップ・プログラムの実施内容 ……	2
1 プログラムの概要……	2
2 長期プロジェクトコースの実施内容……	4
3 ビジネスコース／パブリックコースの実施内容……	5
4 プログラムの運用にあたって……	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から……	8
第4章 受講生のアンケート結果から……	14
第5章 今後の課題……	27
1 インターンシップをめぐる状況……	27
2 財団における今後に向けた取組……	27
<資料>	
資料1 出願者・受講者数と受入企業・団体数について……	28
資料2 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移……	29
資料3 受入先登録企業・団体一覧……	30
資料4 長期プロジェクトコース講義概要……	32
資料5 長期プロジェクトコースプロジェクト別コーディネーター一覧……	33
資料6 ビジネスコース／パブリックコース講義概要……	34
資料7 ビジネスコース／パブリックコースコーディネーター一覧……	35
資料8 受講生意識調査集計結果……	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」という。）が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（以下「本プログラム」という。）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。中でも、2021年度以降、感染症等による社会状況の変化に対する学びの機会の確保等の観点から、選考面接、事前・事後講義についてなどオンラインを積極的に活用してプログラムを運営している。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」という。）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ6,000を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、延べ約1万名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

インターンシップは、本プログラムの開始以降、全国の大学でも独自の取り組みが進められている。現在インターンシップを実施している大学は、大幅に増加しており、インターンシップは大学生の課外活動として定着したと言える。一方で、採用直結型のインターンシップの増加や就職活動の早期化など、大学生の就職活動を取り巻く環境が急激に変化している。これらの状況を鑑み、本プログラムも社会の変化に応じて、さらなる充実をめざすために、2015年度より発足した「インターンシップ事業企画検討委員会」にて、時代に即したプログラム等について検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間でインターンシップ・プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生が本プログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

第2章 2022年度インターンシップ・プログラムの実施内容

1 プログラムの概要

(1) コースの設定

ア 長期プロジェクトコース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。インターンシップ期間は、6月から11月までの約5か月間で、年1回の実施である。

イ ビジネスコース／パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織において就業体験を行う実践型として実施する。インターンシップ期間は、8月から9月中旬までの間に10日以上で設定され、年1回の実施である。

(2) 受入企業・団体の登録

2022年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、約300の企業・団体に対しインターンシップ・プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、教育プログラムとして実施するインターンシップの理解を得るための案内パンフレット及び受入先ガイドブックの送付並びに電話連絡を中心に、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、ビジネスコース／パブリックコースに129、長期プロジェクトコースに13、合計142の企業・団体からの登録を得た。このうち、新規に登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース／パブリックコースに1、長期プロジェクトコースに2の合計3であった。また、昨年度未登録で、今年度に再登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース／パブリックコースに12、長期プロジェクトコースに1の合計13であった。

(3) 学生の募集

学生募集にあたっては、主に募集ガイドブック、電子チラシ及びインターンシップ・ポータルサイトを中心に広報を実施した。本財団に加盟している大学のうち35大学38カ所のキャンパス、そして非加盟大学では要望により10大学に募集ガイドブックを配布するとともに、電子チラシによるプログラム周知を依頼した。これらの資料はインターンシップ・ポータルサイトにも掲載し、学生が常に情報にアクセスできる環境を整えた。

各大学で開催されるインターンシップ説明会でのガイダンスを6大学で実施。また、例年、キャンパスプラザ京都で実施していた説明会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催とし、説明会ではインターンシップ・プログラムの全般的な説明の他、修了生による経験の共有、個別相談会での質疑応答等を行った。

ア インターンシップ・プログラム説明会・相談会

日 時 4月16日(土) 18:00～20:30 参加学生数251名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2022年度インターンシップ・プログラムの概要説明

修了生(4名)による体験談

受入先としてインターンシップ生に思うこと

大和電設工業株式会社 採用・教育担当 土肥 遥 氏

関西巻取箔工業株式会社 取締役 C.O.O 久保 昇平 氏

修了生ブースによる相談会

イ 長期プロジェクトコース説明会・相談会

日 時 4月21日(木) 18:00～20:30 参加学生数 32 名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2022 年度インターンシップ・プログラムの概要説明

受入先によるプロジェクト紹介

修了生 (2 名) による報告

受入先 (11 団体)・修了生 (2 名) による個別相談会

(4) 出願及び面接

本財団への加盟・非加盟を問わず、各大学の正規学生及び大学院生であれば、学部・学年を限定せず出願可能とした。

出願手続き及び面接については、学生の利便性向上等の観点から、昨年度に引き続き、Web 出願、オンライン面接とした。面接は出願者全員に対して行い、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する観点で質問を行った。

ア Web 出願

4月15日(金)～5月6日(金) 出願者 285 名

イ オンライン面接 (Zoom)

5月13日(金) 15:30～18:30

5月14日(土) 10:00～17:00

(5) 選考及びマッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録に基づき決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討した上で、受講許可を与えた。

2022 年度プログラムに登録した受入先企業・団体のうち、受入先による選考を選択したのは32、本財団による選考を選択したのは110であった。

なお、長期プロジェクトコースは、長期間にわたって実施するプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

(6) 受講手続

受講料徴収手続きについては、2022 年度も引き続き、原則コンビニエンスストアでの支払いとした。受講料は、長期プロジェクトコースで15,000 円 (加盟大学以外の学生は20,000 円)、ビジネスコース／パブリックコースで10,000 円 (加盟大学以外の学生は15,000 円) とし、講座運営費・保険料・施設利用料・その他諸費用に充てた。

2 長期プロジェクトコースの実施内容

(1) 実施プロジェクト

今年度の長期プロジェクトコースにエントリーした13団体が提供する13プロジェクトのうち、10プロジェクトが成立した。10プロジェクトの内容と受講者数は、資料5のとおりである。

(2) 講義概要

ア プロジェクトの導入

オリエンテーションとしてプログラムの概要や諸注意等の説明を行った後、各プロジェクトに分かれてミーティングを実施した。ミーティングでは、プロジェクトメンバーの相互理解を進めるとともに、受入先からの目標提示を受け、講義の最後に、各プロジェクトの概要を全体に発表した。

また、オンデマンド配信によりリスクマネジメント講習を実施し、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

イ プロジェクトの形成

プロジェクト形成の概要を学んだ上で、プロジェクトの目標、成果及び活動を明確にし、活動計画を設定した。また、プロジェクト形成と併せて、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上を目的とした専門講師によるコミュニケーショントレーニング、映像コンテンツの活用法を学ぶプレゼンテーショントレーニングを実施した。

特別講演では、現代仕事論をテーマに、これからの働き方、求められるコミュニケーション能力について、ご講演いただいた。

<<講演概要>>

日 時 2022年6月30日 18:30～19:30

テーマ 現代仕事論

講 師 パナソニック株式会社 戦略本部 CCX0 チーム

長谷川 錦哉 氏

ウ プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。プロジェクト活動については、対面を中心にインタビュー等を実施しながら、適宜、オンライン会議等によりチーム内で作業の進捗状況を共有した。

受講生は、サマーセッションとして映像コンテンツによる夏期活動中間報告を実施し、同セッションでは、今後の活動に係る個人ごとの目標について発表した。

エ プロジェクトの振り返り

プロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況の報告とそれに対する意見に基づき、プロジェクト・プレゼンテーションまでの目標等を確認した。また、プロジェクトの評価方法を学び、受入先から提示のあった目標に対するアプローチの妥当性や有効性等について、プロジェクトごとに評価を行った。

オ プロジェクト報告・評価

講義最終日に、プロジェクト・プレゼンテーションを実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表した。また同日、今後のキャリア形成に向けて、プログラムの受講を通じた自己の変化を振り返る自己評価の時間を設けた。

受講生は、全てのプログラム終了後、プロジェクト報告書及び学習レポートを提出した。

3 ビジネスコース／パブリックコースの実施内容

(1) 実習受入れについて

今年度は、ビジネスコースで69団体に142名、パブリックコースで27団体に65名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

(2) 講義概要

今年度の事前学習及び事後学習については、昨年度に引き続き、感染症等の社会状況の変化に対応できるよう全てオンラインにて開催した。講義内容については、以下のとおりである。

ア 事前学習

事前学習は、実習に向けた仮説と目標の設定と業界研究を通じたそれらの言語化を目的として、1クラス12名程度で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生21名、受入先企業・団体のご担当14名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

イ ビジネスキル研修

外部講師を招いて、コミュニケーショントレーニング及びスキルアップトレーニングを実施した。コミュニケーショントレーニングでは、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの基本、コミュニケーション能力等について学習した。また、スキルアップトレーニングでは、ロジカルシンキングの獲得を目指し、実践的理論を学んだ。

ウ リスクマネジメント講習

リスクマネジメント講習は、事前学習の初日及び最終講義日の2度に分けて実施した。講義では、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

エ 事後学習

実習で得た経験や課題等についてクラスで共有し、相互理解を深めた。また、他者の経験を踏まえた仮説の検証や成長点の確認により、プログラム終了後も継続する学生生活へと繋げた。

「実習経験交流会」では全クラスを3グループに分け、その中でクラスごとに発表の後、他クラスからのコメントを元にした振り返りを行った。他クラスの経験も学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

4 プログラムの運用にあたって

(1) 受入先企業・団体との連携

長期プロジェクトコースにおいては、出願受付の前に説明会を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

ビジネスコース／パブリックコースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、受講生の実習日に、コーディネーターが受入先を訪問（オンライン面談及び電話を含む。）し、実習状況の確認を行った。

ア 長期プロジェクトコース受入先ご担当者説明会

日 時 6月16日(木) 18:00～18:30

会 場 キャンパスプラザ京都

参加数 受入先ご担当者 9名

内 容 2022年度のプログラム概要及び担当コーディネーターとの方針確認

イ ビジネスコース／パブリックコース受入先ご担当者説明会

日 時 6月9日(木) 17:00～18:30

会 場 オンライン (Zoom)

参加数 受入先ご担当者 64 名

内 容 2022 年度インターンシップ・プログラムの概要と講義内容について
実習生の受入れについて

受入先様による「インターンシップに対する想い」

前・三共精機株式会社 代表取締役会長 石川 武 氏

受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

(2) 大学・短期大学との連携

学生の所属大学と連携し、プログラムの広報及びインターンシップの運営に係る情報共有を行った。プログラムの広報については、第2章1(3)のとおりであり、インターンシップの運営に係る情報共有については、授業や課外活動がコロナ禍以前の状況に戻りつつある中での、インターンシップの実施状況、受入先との連携及び学生対応の方針の共有を重点的に行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、インターンシップ事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

(3) インターンシップ事業企画検討委員会

大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学連携による教育プログラムとして実施されている。

本委員会は、財団のミッションである大学間連携事業を推進する中で、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育としてのインターンシップ事業を推進し、加盟大学の教育の質向上と実社会に則した教育効果のあるインターンシップ・プログラムに資する検討の場としている。

上記目的を達成するために、本委員会で議題とする内容は、各コースコーディネーター会議や担当事業部会議においても報告し、また必要に応じて議題とし、事業運営の方針となりうるよう綿密に連携を取り進めることとしている。

ア 教育プログラムとしての質的向上に向けた主な審議事項

- ・2023 年度実施方針の策定に向けた課題について
- ・インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方（令和4年6月13日付け）への対応について

イ 開催日程

第1回 2022年6月3日(金)

第2回 2022年10月21日(金)

第3回 2022年12月2日(金)

第4回 2023年2月24日(金) (予定)

ウ インターンシップ事業企画検討委員会構成委員

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	桜沢 隆哉	京都女子大学 法学部 教授
	吉田 咲子	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部 教授
	三浦 潔	京都文教大学 総合社会学部 教授
	黒宮 一太	京都文教大学 総合社会学部 准教授
	木下 翔吾	大谷大学 学生支援部キャリアセンター
	瀬合 香恵	京都産業大学 キャリア教育センター（～2022年9月25日）
	渡邊 直裕	京都産業大学 初年次教育センター（2022年9月26日～）
	安本祐一郎	京都先端科学大学 インターンシップセンター
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課
	松尾憲太郎	立命館大学 衣笠キャリアオフィス
	石川 武	喜一工具株式会社 取締役副社長（※）

（※）三共精機株式会社 代表取締役会長（2022年5月31日まで）

4 リスクマネジメント

(1) 三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「インターンシップ実習生派遣に関する協定書」を締結した。

(2) 感染症対策ガイドラインの策定

受講生に対しては、「大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムに係る活動を行う際の感染症対策ガイドライン」、受入先に対しては、「インターンシップ・プログラム受入先ガイドライン」により、実習実施にあたり必要な対策及び対応を周知した。

なお、受入先に対しては、「実習受入先感染症対策チェックシート」の提出及び実習生への感染対策の説明を求め、双方が安心してインターンシップに取り組めるよう体制を整えた。

(3) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

なお、2022年度については、保険金請求事例は発生しなかった。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500 万円／入院保険金日額 4,500 円／通院保険金日額 3,000 円

【賠償責任保険】 てん補限度額 1 億円（自己負担額 0 円）

(4) ハラスメントに対する取組

ハラスメント相談窓口を設置し、実習生をサポートする体制を整えている。ハラスメント相談窓口については、オリエンテーション及びリスクマネジメント講習にて受講生に案内した。また、受入先に対しては、ハラスメント対策について、各コース受入先ご担当者説明会にて説明を行った。

第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると89.1%であった。また、次年度の受入れ予定については、70.4%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており(2021年度は71.4%、2019年度は65.7%)、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース／パブリックコース	2022年9月下旬(実習終了後)
長期プロジェクトコース	2022年11月中旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
ビジネスコース	66	62	93.9%
パブリックコース	25	25	100.0%
長期プロジェクトコース	10	10	100.0%
総計	101	97	96.0%

※ビジネスコース 2部署回答の受入先があったため回答数63の項目あり

※パブリックコース 4部署回答受入先があったため回答数28の項目あり

II. アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、インターンシップ生のマッチングについてはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①満足している	61	96.8%	25	89.3%	6	60.0%
②どちらでもない	2	3.2%	3	10.7%	2	20.0%
③不満がある	0	0.0%	0	0.0%	2	20.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

【①の理由】

- ・実習内容に対して、3名それぞれが得意とする分野が異なり、各自の角度からのアプローチがなされていたため。また、3名の間でブラッシュアップができていたため。
- ・今年度は当方を実習先に希望(順位は違うが)していた学生であったため、その学生に合った内容でのプログラムを組むことが出来た。
- ・やる気があり、大変、努力家である点が、弊社の考え方とマッチしていました。
- ・業界や業態に興味をお持ちの方に来ていただいているので
- ・実習を自分のモノにしたいという気持ちが伝わった
- ・職業選択の一つとして、興味をもっていただけ
- ・いずれの実習生も飲み込みが早く、実習内容を確実に理解して取り組んでくれたため。
- ・どのプログラムについても前向きに取り組んでいただいた。
- ・当財団を希望順に入れた学生が参加してくれたため
- ・本学の学生でしたので、学生からみる大学と違う視点の大学を見せられてよかった
- ・経営理念に基づいた行動ができた。
- ・彼、彼女がいなければ実現できなかった成果を残すことができたから
- ・地域に入られての活動に、野外活動や、大学ゼミでの活動を通じて、素地をお持ちでして大変力になり、感謝しております
- ・弊社の取組に興味がある子たちが来てくれて嬉しかったです。

【②③の理由】

- ・パソコン処理能力等は十分であるが、一般的な対人マナーが見についていないため、業務のメインが対人となる実習にはあまりマッチングしていなかったと思います。
- ・実習生には大変満足です。当社が専門領域の実習を調整できず申し訳なく思います。
- ・真面目に取り組まれていたが、実習内容が実習生の望む分野であったか疑問
- ・積極が見えない学生さんがいて、協調することができていない。
- ・活動スケジュールが大幅に合わないことがあった。熱意が感じられない部分があった。
- ・2名中1名が途中で辞退された為
- ・マッチング段階で、応募者と事務局と弊社でコンセンサスが取れていれば良かった。

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	40	63.5%	8	32.0%	3	30.0%
②社員の補助的な業務の一部を体験	15	23.8%	11	44.0%	0	0.0%
③社員の通常業務以外の業務	4	6.3%	1	4.0%	4	40.0%
④見学を中心に実施	2	3.2%	2	8.0%	0	0.0%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	1	1.6%	2	8.0%	0	0.0%
⑥その他	1	1.6%	1	4.0%	3	30.0%
総計	63	100.0%	25	100.0%	10	100.0%

【⑥その他の記述欄】

- ・①だけではなく、補助的な業務もあり
- ・パデルレッスンを受けながら、当施設の会員（キッズ、一般、シニア）と試合の体験
- ・障害者雇用の取り組みを知ってもらおう広報的なこと
- ・自主的に学び、企画、実践する体験
- ・見学のみならず、体験と、その活動を通じて、類推する力の発揮をなさいました。

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	54	85.7%	25	100.0%	8	80.0%
1円～4,999円	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
5,000円～9,999円	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
10,000円～19,999円	3	4.8%	0	0.0%	1	10.0%
20,000円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	1	1.6%	0	0.0%	1	10.0%
総計	63	100.0%	25	100.0%	10	100.0%

●次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	44	69.8%	18	72.0%	7	70.0%
②受入れない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③未定	19	30.2%	7	28.0%	3	30.0%
総計	63	100.0%	25	100.0%	10	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	58	92.1%	25	89.3%	7	70.0%
②ふつう	5	7.9%	3	10.7%	2	20.0%
③真剣さを感じられなかった	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

●学生自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	60	95.2%	26	92.9%	9	90.0%
②どちらともいえない	3	4.8%	1	3.6%	1	10.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	24	38.1%	14	50.0%	1	10.0%
②自主性・独創性の育成	26	41.3%	14	50.0%	5	50.0%
③キャリア形成	12	19.0%	5	17.9%	0	0.0%
④問題解決能力の向上	24	38.1%	7	25.0%	2	20.0%
⑤多様な価値観の認識	37	58.7%	16	57.1%	5	50.0%
⑥コミュニケーション能力の向上	29	46.0%	15	53.6%	6	60.0%
⑦プレゼンテーション能力の向上	17	27.0%	10	35.7%	4	40.0%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	18	28.6%	10	35.7%	2	20.0%
⑨その他	3	4.8%	1	3.6%	1	10.0%

【⑨その他の記述欄】

- ・自分自身の理解
- ・自己分析と他己分析について
- ・自信がない方が多かったので、少し自信やなんとかなる安心感を持ってくれたかと思います。
- ・「行動に移した」という実績と自信。
- ・感謝の気持ちを持つ

3. インターンシップ・プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行うインターンシップに参加された一番の理由は何ですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①コンソーシアム京都の加盟大学との強化	11	17.5%	2	7.1%	1	10.0%
②指導することにより社員の育成になるから	13	20.6%	1	3.6%	1	10.0%
③学生への自社PRのため	8	12.7%	4	14.3%	0	0.0%
④採用活動につなげたいから	10	15.9%	7	25.0%	0	0.0%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	1	1.6%	1	3.6%	6	60.0%
⑥社会貢献	19	30.2%	9	32.1%	0	0.0%
⑦その他	1	1.6%	4	14.3%	2	20.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

【⑦その他の記述欄】

- ・学生、社員、両方に良い影響を与える。
- ・実習部署の役割や活動について理解を深めてもらうため
- ・学生の就業意欲の向上に寄与し、職員の指導力の向上や職場の活性化につなげるため
- ・次世代の環境リーダー育成
- ・青少年育成・機会提供の役割を果たす／ユースサービスの認知向上・共感者が増えること
- ・社会課題解決に向けた担い手、ネットワーク、基盤づくりのため
- ・大学生と地域社会の共創の場の実現とそれに参画させていただけたこと

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	6	9.5%	2	7.1%	1	10.0%
②職場活性化	8	12.7%	6	21.4%	0	0.0%
③指導する社員の成長	14	22.2%	1	3.6%	1	10.0%
④自社のPR・広報・宣伝	10	15.9%	4	14.3%	0	0.0%
⑤優秀な学生との出会い	12	19.0%	7	25.0%	4	40.0%
⑥新たな企画開発	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
⑦社会貢献	10	15.9%	7	25.0%	3	30.0%
⑧その他	0	0.0%	1	3.6%	1	10.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

【⑧その他の記述欄】

- ・青少年育成・機会提供の役割を果たす／ユースサービスの認知向上・共感者が増えること
- ・学生さんによる自分ごととしての学びの場形成と、リーダーシップ力の発揮による刺激をいただき、自発性の発露を感じました

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	34	54.0%	16	57.1%	5	50.0%
②事前の準備に時間・コストがかかる	16	25.4%	8	28.6%	4	40.0%
③安全への配慮に手間がかかる	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
④情報漏えいが不安である	4	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑤その他	7	11.1%	4	14.3%	1	10.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

【⑤その他の記述欄】

- ・事前準備に時間がかかる
- ・デメリットに心当たりがないのでその他を選択しました
- ・特になし
- ・共通理解の醸成、アウトカムの位置づけ

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	18	28.6%	13	52.0%
②ない	22	34.9%	4	16.0%
③新卒採用を行っていない	10	15.9%	1	4.0%
④わからない	13	20.6%	7	28.0%
総計	63	100.0%	25	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	9	50.0%	9	69.2%
②選考過程で採用には至らなかった	5	27.8%	2	15.4%
③不明	2	11.1%	2	15.4%
無回答	2	11.1%	0	0.0%
総計	18	100.0%	13	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から大学生のインターンシップを受け入れていますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①はい	42	66.7%	25	100.0%	8	80.0%
②いいえ	21	33.3%	0	0.0%	2	20.0%
総計	63	100.0%	25	100.0%	10	100.0%

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①満足	39	61.9%	9	32.1%	4	40.0%
②やや満足	18	28.6%	17	60.7%	3	30.0%
③どちらでもない	6	9.5%	2	7.1%	2	20.0%
④やや不満	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
⑤不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	63	100.0%	28	100.0%	10	100.0%

Ⅲ. ご意見・ご要望について（自由記述欄より抜粋）

本項目については、実習実施後調査書自由記述より抜粋したものを原文のまま掲載する。
ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

《ビジネスコース/パブリックコース満足度の理由について》

製造（食品）	例年弊社に来てくれる学生の質が高い。本年度も非常にまじめでしっかりした印象であった。
製造（半導体・精密機器）	真面目に実習に取り組んでいただいたことで、社員側にも刺激があり、非常によい経験になったため。
不動産・建築設計	素直でしっかりと自分を持った学生さんが多い。学校や大学コンソーシアムさんで教育されているのか礼儀や作法が素晴らしいです。中間指導もあり学生をほったらかしにしていない。
デザイン	双方にメリットがあったように思う。学生の価値観を知る、業務の流れを知る、など。
情報・通信・IT	兎にも角にも、きてくれた学生の勤勉さに尽きます。教えたことをこれほど手応えよく頑張ってくれた学生も近年ではなかなかありませんでした。
マスコミ・広告・印刷・出版	学生が多いに成長してくれた。社内が活性化し、自社業務のヒントや気づきも得られた。指導する社員たちの「若者慣れ」にも役立った。
マスコミ・広告・印刷・出版	学生にとっては新しいことをたくさん吸収して実習を終えられたのではないかと感じる。通常の業務と並行しての指導となるため、十分な説明やフィードバックの時間がとれず、受け入れ側としてはやや課題も見えたため。
マスコミ・広告・印刷・出版	弊社としては出来るだけの事はできたと自負しておりますが実習生にとってはどうだったのか、社員ともっと交流する機会があった方が良かったのかなとも思っています。
運輸・物流	例年と比べて大きな変化がなかったから
安全・メンテナンス・清掃	実習生が決まってからの段取りが良かった。
商社・卸売	参加者が主体的に行動して成長が実感できたため
商社・卸売	意欲のレベルが学生によりバラツキがあると聞いており、本当に意欲のある学生の派遣を今後もお願いしたい。
小売・販売・専門店	実習生の方も非常に真面目に取り組んでおられ、実習生同士だけでなく職員にも良い影響を与えていたためです。
レジャー・アミューズメント	2名が1名になり、マンツーマン指導という濃い内容になりました。2名であればできたであろう情報交換などを実施できず、残念な部分があった。聞く耳を持つ指導の手応えを感じる学生との10日間でした。
エンタテインメント	学生の成長度合いが高かった
ホテル・旅館	丁度よい期間だった。短いところだと5日間で終了等あるため
ホテル・旅館	実習生の方、指導役の客室係の双方で実習を通して成長が感じられたので。
観光・旅行	学生さんたちが毎日真面目に広報に取り組んでくれた
金融・証券・保険	とても良い学生さんにお越しいただき、弊社の事や金融業界の事を知っていただく良い機会になったと思っています。実習課題の事前準備や指導については社員の育成にもなりました。
士業（法律・会計事務所）	コーディネーター教員による中間指導の際に、様々な意見交換をすることができました。
コンサルティング・調査・研究	準備時期が決算時期と重なり、時間を取られるのがしんどかった。
コンサルティング・調査・研究	学生さんへの貢献や自社PRはある程度できていますが、担当レベルの負担も大きい。
教育（学校・大学等）	受入れ先部署では、学生目線からの意見をいただき、とても参考になった。今後の新しい企画につながることを期待する。
教育（学校・大学等）	特殊な社会状況の中でも実現できる自信ができました
官公庁	事務補助だけでなく、イベント補助など幅広く業務に携わっていただきましたが、何ごとに対しても正確かつ迅速に、また全力で取り組んでいただけました。大変満足しています。
官公庁	非常に意欲の高い実習生をマッチングしていただき、職場にも良い刺激となった。実習開始までの流れも分かりやすく、スムーズに実習を行えた。
官公庁	事前学習、説明会、中間面談、事後発表会等、充実のプログラムだと実感したから。実習生の取り組む姿勢が素晴らしかった。
官公庁	インターンシップ生については、高い満足度が得られたが、もう少し一貫した業務を提供する準備をすべきだったと考えるため、やや満足とした。
官公庁	協定を通じた単位取得型のインターンシップを初めて実施できたため
官公庁	実習を設定する期間が短く、受け入れが難しい時期であったため、実習日程の設定に苦慮した。実習設定可能期間にもっと余裕があればありがたかった。また、実習生には、事前に基本的な対人マナー等を指導しておいてほしいと思います。
非営利組織	事前学習に参加させていただくことで、他者、他団体の取組みを知ることができ参考になった。
非営利組織	やはり、参加してくれた学生の志や行動によると感じた
非営利組織	活動期間をもう少し長いほうが良かった。

《ビジネスコース/パブリックコースプログラムの改善点について》

製造（その他）	2人もしくは3人でのインターンシップに出れば、より学生としても成長できるのではないかと感じます
情報・通信・IT	能力があるのに、コミュニケーションに自信がない方が多かった。単純にリアクションなどのアウトプットをする癖をつけられればいいと思うので、指導などがあってもいいと思います。
小売・販売・専門店	勤務内容の事前学習よりも社会人としての身なりの学習にも力を入れてもらいたい
エンタテインメント	報告会や交流会を対面形式にできればさらに良いと思う。
ホテル・旅館	実習経験交流会はもう少し工夫が必要かなと思いましたが、時間や場所の制約などで思うような報告会が出来ないのかとも思いました。
教育（学校・大学等）	実習の時間を増やすことを検討したいが、受け入れ部署の状況もあるので現実には難しいと感じています。
医療・福祉	プログラム全体を学生が把握してない部分がありました。 レポート冊子の最終ページ（配属先の担当者にコメントをもらうページです）を提出されず、こちらから記入した方がよいか確認をしました。
官公庁	コロナ禍における実習の受入れ可否（続行するのか否か）について各受入先で判断するのではなく、感染状況等に応じて主催者で判断いただきたい。
官公庁	全体のスケジュール上難しいかもしれませんが、受入団体側での選考期間をもう少し長く設定いただけるとありがたいです。
官公庁	10日間の比較的長い期間で実習いただく機会は貴重ですので存続しつつ、5日間程度の短期間のインターンシップ・プログラムも選べる選択肢があっても良いように思います（実習生および受入所属の負担が軽減されるため。）。
官公庁	受け入れた学生については満足だが、準備および実習にかかる職員の負担を考えると、10日間の受入れは厳しく感じている。5日間コースなどもあれば、受入れ人数を増やすことも検討可能であり、目的のひとつである採用に繋がる可能性も大きくなると考える。
官公庁	全体的に満足しているが、インターンシップ期間がやや長く感じる。
官公庁	実習の日誌とそれに対するコメントについては、手書きだけでなくデータ上での入力・確認が行えると、より実習生・実習先担当者の負担が減ると感じた。
非営利組織	実務実習毎のアドバイスの書き込みに時間がかかり大変だった。オンライン形式など負担軽減の工夫が欲しいと感じた。実習での、オンライン実施は、困難である。
非営利組織	致し方ないことだが、以前より学生の夏休み期間が短くなっており、実習日の調整が難しい場合がある。8月初めくらいから実施できた方が、こちらもより良い内容を提供できるのだが。

《長期プロジェクトコース ご意見・ご要望について》

実習期間や日数がもう少し増えると学生たちと地域との関係がより深くなる。新旧学生同士の引継ぎや先輩からのアドバイスの機会や仕組みがあると心強い。	
インターンシップの成果が良くないものであった場合、企業のイメージにも少なくとも影響が出てきます。もっと企業との関わりを作って頂き、困った時には誰がどのようにどこまでフォローしていただけるのかを明確にいただけると、受け入れ側としてはより活動しやすいのではと感じました。 また、全体として、学校側などは学生の成果に対する評価をどのように成されるのかが気になりました。単純に、プロジェクトが終わったからよし、と言うのではなく、企業が求める成果に対してどのくらいできていたのか？そうした視点での評価は非常に大事ではないかなと思います。そのためにも、もっとコーディネーターさんや事務局の方々にも、企業側の求める各プロジェクトの主旨や成果に期待することなどを知って頂き、そこに対しての評価軸を持っていただけると大変魅力的なものになると思いました。	
もう少し少ない人数で密なコミュニケーションをしたい	
3人以上になると関係線が増えてしまい、合意形成に時間と手間が掛かり成果にも影響が出る	
前半にもう少し“山場”が作れば、夏休みで加速しやすいのではないかな	
学生との時間はとても貴重でありがたかったのですが、毎回自己紹介から始まる講師の先生のお話を私たちも一緒に聞くのは少し負担がありました。レクチャー後からの参加にさせていただきたいと思いました。	

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の86.5%であった。また、成長感については、95.1%が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長に繋がるとともに、多くの受講生にとって、就職することに対する意識の醸成や卒業までの目標を定める機会となったことが確認できる。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース／パブリックコース

2022年9月17日～10月1日

長期プロジェクトコース

2022年11月5日～11月10日

2. 回答数

	回答数
ビジネスコース	114
パブリックコース	54
長期プロジェクトコース	17
総計	185

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大変満足	66	57.9%	38	70.4%	8	47.1%
②満足	41	36.0%	12	22.2%	9	52.9%
③どちらでもない	7	6.1%	4	7.4%	0	0.0%
④不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①基幹的業務の一部を体験	50	43.9%	16	29.6%
②補助的業務の一部を体験	24	21.1%	23	42.6%
③通常業務以外の業務	9	7.9%	4	7.4%
④見学を中心に実施	16	14.0%	8	14.8%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	11	9.6%	0	0.0%
⑥その他	4	3.5%	3	5.6%
総計	114	100.0%	54	100.0%

【その他の記述内容】

- ・会社訪問
- ・営業体験
- ・パデルレッスン
- ・InstagramなどSNSの広報
- ・①②③④⑤を網羅的に体験させてもらった。
- ・社員の基幹的な業務の一部を体験、社員の補助的な業務の一部を体験の両方。
- ・ボランティアの方と同じ活動
- ・ボランティアとの活動

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
7日未満 ※	2	1.8%	0	0.0%
7～9日	4	3.5%	3	5.6%
10日	97	85.1%	41	75.9%
11～15日	9	7.9%	10	18.5%
16～29日	2	1.8%	0	0.0%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

ビジネスコース／パブリックコース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
7日未満	0	0	1	1	0	2
7～9日	0	2	5	0	0	7
10日	2	23	104	9	0	138
11～15日	1	4	13	1	0	19
16日以上	1	1	0	0	0	2
総計	4	30	123	11	0	168

長期プロジェクトコース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
6月～11月	1	7	9	0	0	17

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	106	93.0%	53	98.1%	17	100.0%
②どちらともいえない	8	7.0%	1	1.9%	0	0.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	40	35.1%	26	48.1%	2	11.8%
②自主性・独創性の育成	47	41.2%	27	50.0%	8	47.1%
③キャリア形成	40	35.1%	19	35.2%	7	41.2%
④問題解決能力の向上	34	29.8%	18	33.3%	7	41.2%
⑤多様な価値観の認識	58	50.9%	33	61.1%	12	70.6%
⑥コミュニケーション能力の向上	59	51.8%	33	61.1%	10	58.8%
⑦プレゼンテーション能力の向上	30	26.3%	17	31.5%	4	23.5%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	41	36.0%	16	29.6%	1	5.9%
⑨その他	3	2.6%	2	3.7%	2	11.8%

【その他の記述内容】

- ・自分が好き・楽しいと感じる仕事の再認識ができた。
- ・自己理解の向上
- ・観察力
- ・積極的に質問、自分から行動することの大切さを学んだ
- ・深い自己理解
- ・精神面での成長、感情コントロール力の向上
- ・生き方そのもの

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	25	21.9%	19	35.2%	0	0.0%
②やや就職したい	59	51.8%	28	51.9%	7	41.2%
③あまり就職したくない	23	20.2%	6	11.1%	8	47.1%
④就職したくない	7	6.1%	1	1.9%	2	11.8%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	38	33.3%	25	46.3%	3	17.6%
②やや就職したい	48	42.1%	23	42.6%	4	23.5%
③あまり就職したくない	25	21.9%	4	7.4%	7	41.2%
④就職したくない	3	2.6%	2	3.7%	3	17.6%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①強く思うようになった	41	36.0%	26	48.1%	7	41.2%
②少し思うようになった	40	35.1%	12	22.2%	4	23.5%
③それほど変化はなかった	29	25.4%	13	24.1%	4	23.5%
④少ししたくないと思うようになった	4	3.5%	3	5.6%	2	11.8%
⑤強くしたくないと思うようになった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	88	77.2%	42	77.8%	13	76.5%
②変わらない	22	19.3%	9	16.7%	4	23.5%
③悪くなった	4	3.5%	3	5.6%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

●インターンシップ実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%
②あまり思わない	2	1.8%	4	7.4%	4	23.5%
③どちらでもない	8	7.0%	1	1.9%	1	5.9%
④思う	31	27.2%	18	33.3%	7	41.2%
⑤とてもそう思う	73	64.0%	31	57.4%	4	23.5%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

2) 受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	0	0.0%	1	1.9%	3	17.6%
③どちらでもない	4	3.5%	2	3.7%	2	11.8%
④思う	28	24.6%	10	18.5%	5	29.4%
⑤とてもそう思う	82	71.9%	41	75.9%	7	41.2%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	2	1.8%	0	0.0%	4	23.5%
③どちらでもない	14	12.3%	12	22.2%	1	5.9%
④思う	62	54.4%	29	53.7%	5	29.4%
⑤とてもそう思う	35	30.7%	13	24.1%	7	41.2%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.9%	0	0.0%	1	5.9%
②あまり思わない	9	7.9%	4	7.4%	5	29.4%
③どちらでもない	26	22.8%	10	18.5%	7	41.2%
④思う	48	42.1%	30	55.6%	4	23.5%
⑤とてもそう思う	30	26.3%	10	18.5%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	2	1.8%	1	1.9%	3	17.6%
③どちらでもない	19	16.7%	7	13.0%	4	23.5%
④思う	46	40.4%	27	50.0%	5	29.4%
⑤とてもそう思う	46	40.4%	19	35.2%	5	29.4%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.9%	2	3.7%	0	0.0%
②あまり思わない	8	7.0%	3	5.6%	3	17.6%
③どちらでもない	33	28.9%	5	9.3%	7	41.2%
④思う	39	34.2%	23	42.6%	6	35.3%
⑤とてもそう思う	33	28.9%	21	38.9%	1	5.9%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.9%	1	1.9%	1	5.9%
②あまり思わない	12	10.5%	2	3.7%	4	23.5%
③どちらでもない	29	25.4%	18	33.3%	6	35.3%
④思う	52	45.6%	20	37.0%	6	35.3%
⑤とてもそう思う	20	17.5%	13	24.1%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.9%	1	1.9%	0	0.0%
②あまり思わない	10	8.8%	6	11.1%	4	23.5%
③どちらでもない	22	19.3%	9	16.7%	2	11.8%
④思う	43	37.7%	23	42.6%	8	47.1%
⑤とてもそう思う	38	33.3%	15	27.8%	3	17.6%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

●実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	14	12.3%	4	7.4%	4	23.5%
②やや不安だ	39	34.2%	18	33.3%	4	23.5%
③どちらでもない	30	26.3%	10	18.5%	5	29.4%
④あまり不安ではない	25	21.9%	19	35.2%	3	17.6%
⑤不安でない	6	5.3%	3	5.6%	1	5.9%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	23	20.2%	4	7.4%	0	0.0%
②やや不安だ	25	21.9%	10	18.5%	5	29.4%
③どちらでもない	17	14.9%	10	18.5%	7	41.2%
④あまり不安ではない	37	32.5%	25	46.3%	4	23.5%
⑤不安でない	12	10.5%	5	9.3%	1	5.9%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	20	17.5%	8	14.8%	1	5.9%
②やや不安だ	40	35.1%	20	37.0%	10	58.8%
③どちらでもない	31	27.2%	22	40.7%	4	23.5%
④あまり不安ではない	17	14.9%	2	3.7%	2	11.8%
⑤不安でない	6	5.3%	2	3.7%	0	0.0%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	13	11.4%	5	9.3%	3	17.6%
②やや不安だ	14	12.3%	6	11.1%	2	11.8%
③どちらでもない	19	16.7%	8	14.8%	4	23.5%
④あまり不安ではない	34	29.8%	19	35.2%	5	29.4%
⑤不安でない	34	29.8%	16	29.6%	3	17.6%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

3. インターンシップ・プログラムについて

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
②やや不満	2	1.8%	1	1.9%	0	0.0%
③どちらでもない	12	10.5%	6	11.1%	3	17.6%
④やや満足	39	34.2%	19	35.2%	9	52.9%
⑤非常に満足	60	52.6%	28	51.9%	5	29.4%
総計	114	100.0%	54	100.0%	17	100.0%

Ⅲ. ビジネスコース／パブリックコース「実習経験交流会」について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

● 発表を聞いての感想

- 皆さん様々な業種にインターンシップに行かれていて、そこでの経験や得た学びを還元してもらう良い時間だった。特に私は公務員も将来の志望先として考えているため、公務員の働き方や求められる素質について知ることができたので良かった。
- インターンシップでの経験から、たくさんの学びを得たり、これからの課題に気づくことができた人が多いと感じた。発表を聞いて、私自身もこれから頑張ろうという意欲につながった。
- 他の人の実習の一部を知ることができ、まとめ方にも個性があり、聞いていて楽しかった。また、自分が経験したことを他の人に聞いてもらう事で、自分の実習を振り返ることができた。
- 他のグループの発表を聞いて、皆さん一人一人のレベルの高さを実感しましたし、私自身も発表においては、相手に伝えることをより意識した上で臨むことができた。
- 自分の実習先では対話力と企画力が大切だと言われたが、それがどの現場にも活きるものであると再確認できた。
- 実習先が違う中で、どのように共通点を見出して一つの発表としてまとめあげていくかが難しいと感じました。ですが、どの発表もテーマを決めたり、記載事項を統一したりするなど、工夫がみられ、またスライドもとても伝わりやすいものでした。
- 他の業種を経験した方々のお話を聞いて良かった。皆さん、自分と同じように一生懸命に取り組んでいて、自分の学びへも自信を持てた。相手に伝える意識を持って発表することが大切だと感じた。
- 自分が全く知らない、就職しようとも考えていなかった業界や企業、NPO 法人でのインターン実習内容が聞けたのがとても面白かったです。仕事内容は違えどチームで行動することやコミュニケーション能力が必要であることなど、学んだことは共通している部分が多かったところも面白いと思いました。
- 皆さん、インターンシップを通じて成長できた点や逆に、失敗談や改善点なども把握していて、インターンシップを経験して自分の強みや弱みについて気づかされることがあると思いました。
- どの業種で働いたとしても、人とのかかわり合いは大事で、仕事、人間関係などいろいろなことに繋がっていくと改めて感じた。
- 他の人の実習でした仕事の内容や実習先の紹介を聞いて楽しそうだなと思った。どんなことを自分は考えたのかというのを聞くことができて考え方が広がった。できればもう少し質問したり長い時間話したりして、もっと深くまでどんなことを考えたのか知りたかった。
- 仕事の幅広さを実感することができたとし、他の学生から発表の工夫を学ぶところも多かった。実習には満足しているが、プレゼンのスキルや積極性などはもっともっと意識すべきだと学んだ。すべての業務は人とのつながりが共通点としてあるなということにも気づくことができた。
- 企画を考えてプレゼンする経験をした人が多かったのかなという印象だった。学生の視点から考えるという機会が持っていて良いと思った。
- 全体的な発表を聞いて、「働くこと」に対する意識が、お金を稼ぐためという考え方から社会的に役に立とうという考え方や自分のやりがいのために働こうなどの前向きな考え方に変わった。

● 発表時間及び準備について

- 効率よく様々な経験をシェアすることができ、自分の経験も言語化して振り返ることができたので、有意義な時間でした。
- 適当でした。決められた時間以外にもチームの子たちと電話をつなぎながらパワーポイントを作成しました。その時間があっただけでチームの中でも意識も芽生えました。
- 準備時間に関しては最初短いと感じたが、その短い時間を最大限活かすためにクラスが一丸となって資料作成を行う事ができたため、準備時間は適切であったと感じた。
- 実習終了日から日数が空いての事後学習会だった為、当時の記憶を遡ることから始めたので、少し時間的な余裕はなかったように思います。しかし、限られた時間の中で、集中して作業、話し合いを進め、最終的にはまとめ、伝えたい事を伝えきれたので、達成感を味わうことができました。
- 発表時間自体は短めではありましたが、その分要点をまとめる力が養えたのではないかと思います。ただ、発表時間が短いからこそ資料の出来がわかりやすさに直結するため、準備時間はもう少し欲しかったです。
- 全体的に短い印象でした。伝えたいことの割程度しか発表できなかったのも、聴く側も集中して聞けなかったのではないかと思います。
- 発表時間は、1グループで見ると許容範囲だが、6グループとなると少し長いと感じた。準備時間は少しバタバタしたが、苦にはならない程度の時間だった。
- 準備時間はもう少し設けるか、もしくは各自ざっくりした内容は整理してから準備に臨むなどしたほうが、より深掘りした発表になったかと思います。発表時間は各クラス15分程度であるのはちょうどよいと思いますが、午前からの連続で疲れていて長く感じたため、4クラス編成にしてもよいかと思いました。
- 準備時間は十分だったが、私のクラス含め、発表の持ち時間がもう少しあれば良いと感じた。或いは、終了一分前のベルで焦ったり驚いたりしてペースが乱れる人も多かったため、時間の終了一分前と終了時の伝え方を工夫していただけると嬉しい。
- どこまでの発表を求められているのか分からずどこに時間をかけるべきなのかはっきりしていて欲しかった。
- 準備時間はともかく発表時間は短すぎると感じた。せっかく10日間という長い期間実習をしたのに、その共有時間がこんなに短いのは勿体無いと思った。

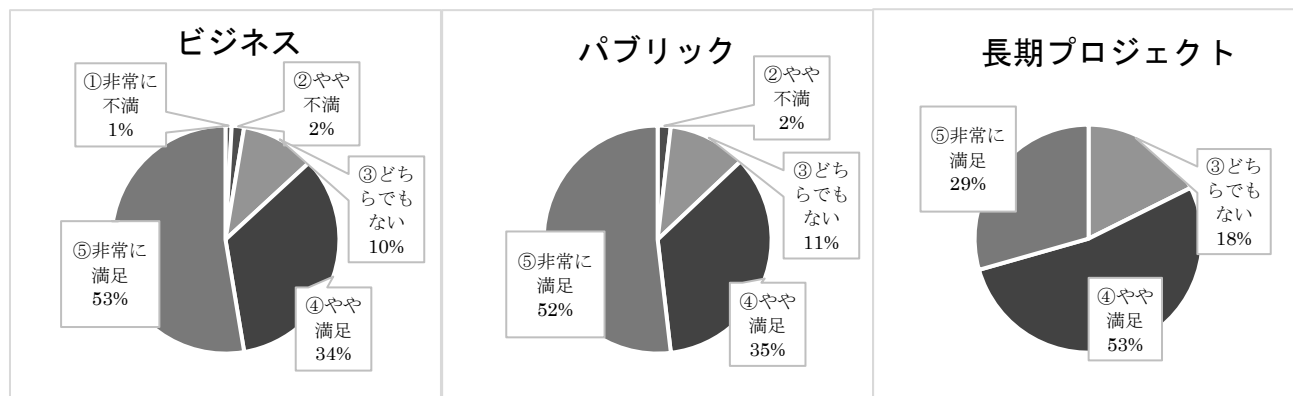
● その他の意見

- 実習期間最終日まで設定する実習先があるので、その翌日に交流会を行うのは良くなかった。発表の準備にさける労力がほとんどなかった。
- 実習経験交流会では具体的に何をするのかということを当日ではなく、事前に教えて欲しかった。
- ゼミクラスでの実習報告と全体での実習報告交流会を別々の日にしたほうが良いと感じました。実習報告だけでたくさんの時間を使ってしまうことで実習報告会の準備が十分にできなかったです。10日間、頑張ってお実習しに行ってきたたくさん学んだことがあるのに実習報告会で思うように報告できなかった点があるので少し残念に思いました。

IV. 意見・感想について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

●全体を通して



《ビジネスコース／パブリックコース》

- なかなか 10 日間という長めのインターンシップに参加するというのがコロナ禍になってからさらに難しくなっていました。そんな中でも対面でインターンシップに参加でき、自分の成長につながる貴重な体験をさせていただけた。また、事前学習、事後学習、マナー講習などサポートがしっかりされているため、不安なく参加できた点も良かったのではないかと思います。
- はじめてのインターンで、礼儀やマナーそして、業務を行なったが、どれも刺激的で自分にはまだまだ足りない部分も見れたし、案外できる事も知ることが出来た。とても良い経験になった。
- これまで働くということについて漠然とした考えを持っていたり、不安に感じていたりしていたが、長期にわたって学ぶことで自信につながった。自主性を持って行動することや、人前で話すことが苦手だったが、インターンを通じて慣れから緊張しなくなった。
- マナー講習に始まり、レポートの書き方や、パワーポイントの分かりやすい作り方で指導していただきとても身になる授業内容でした。又、コンソーシアムに参加していなければ出会わなかった他大学の学生とも仲良くなれるきっかけを作ってくださったのでとても充実したプログラムでした。
- 就職活動を何も始められていなかった中、一歩踏み出すきっかけになった。他大学の人と仲良くなれた。目標を定めて取り組んで、それを振り返る一連の流れを経験できた。
- 学びをアウトプット出来る機会があった。ゼミの仲間も先生も温かい人ばかりで、私の成長を見守ってくれた。
- 1day で行うものとは比較にならないほどの経験値を得た。
- 事前事後ともに丁寧にフォローしていただいたので、しっかりと実習に臨めたこと、また中間指導にも来ていただけたこと感謝しています。
- 同じクラスの学生と交流を深めることができたため、実習先での学びだけでなく、他の学生との交流で学ぶことも多く、参加して良かった。
- 将来何をしたいか迷っていて、プログラムに参加することで将来をどのように考えているのか、働くこととアルバイトの違いを知りたいと思い参加しましたが、思っていたよりも自分と同じように悩

んでいる人がいたことと、実習を通して働くとは何かを少し理解できたと思います。

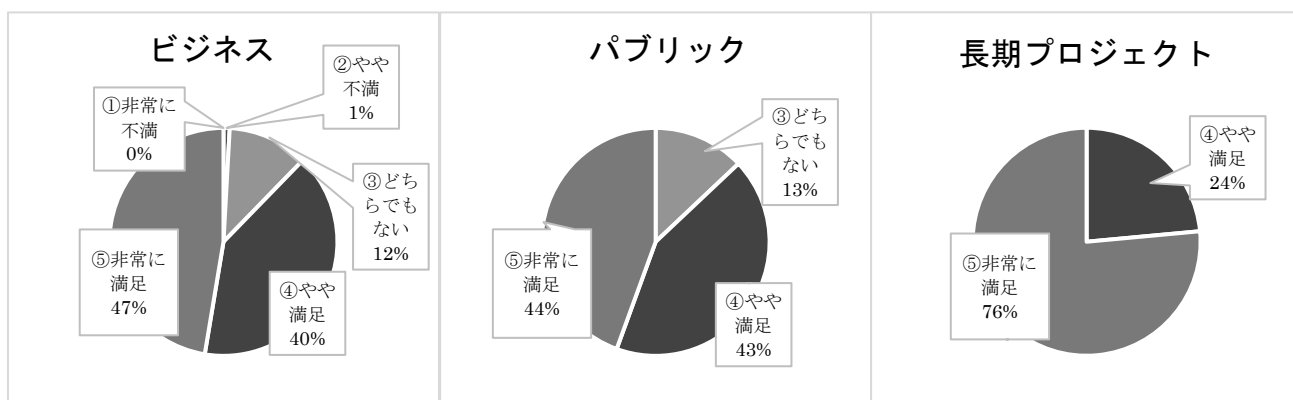
- 自主的に目標をつくったり、自分で項目を考えて振り返りをしないかぎり、だいたいのインターンシップは受けっぱなしになってしまう所を事前学習・事後学習の時間がプログラムの中に組み込まれていて、強制的に目標作りや振り返りができる機会があるところが良いと思いました。
- 自分に合う働く場所、環境って大事なことなんだと思った。就活する上で自分が重きを置くところを見つけられたと思う。ただ働けばいいことではなく、自分がやった仕事が誰かに影響を受けること、その先に重要なことがあることを今回のインターンシップで学ぶことができた。
- ゼミクラスなどでの活動は自身の考えを言葉にする機会が多く自身の無意識なども改めて詳しく考え直すことができた点が良かった。インターンシップ中は日誌等での振り返りなどの機会はあったがゼミクラス等ほど自身の意識を深く振り返ることができなかったため惰性的に活動してしまった部分があると思い反省している。インターンシップ先では基本的に接客を行っていたため、想像していた仕事というものがどのようなものかや就活について意識を改めることはあまりできなかったようにも感じた。
- 事前学習から事後学習を通して振り返りを行う事で自己成長を感じられる事や、他の大学生の方と関われる機会になれたので良かった。だが、スキルアップトレーニングなどはもう少し重点を置いて行って欲しかった。急ぎ足で進むため、着いていく事で必死になりしっかりと学ぶことが出来なかった。
- インターンシップ・プログラム全体を見て結構過密スケジュールの中だった。
- インターンシップの内容は非常に充実していたが、事前レポートが辛い。
- zoom では難しい所が沢山あった。時間が長い。
- 値段が高いし、事前説明がわかりづらかった。

《長期プロジェクトコース》

- 想像以上に沢山の経験を得ることができました。長期ということもあって、得た学びや自信を同時並行の他インターンシップ・大学の授業で生かすことができたのが印象的でした。これまで長期的になにかをやりきったことが無く、今回のインターンシップが大きな自信に繋がりました。
- 他の大学生とプロジェクトを立ち上げるというところにすごく魅力を感じる。長期で、少し気が抜ける時期もあるかもしれないが、目標と成果のお話を口うるさく言っていたので、程よく焦りを感じつつ、質のある活動にできた。学生の主体性を大切にするという点で、前で発表する機会や、意見交流する機会は、このようなインターンシップでしかできないと思う。
- 自己成長と受入先様の成長の両方を実感することができ、大学コンソーシアム京都のプロジェクトならではの視点で社会を知ることが出来た。
- 講義の中で他のグループとディスカッションする時間があり、自分達だけではわからなかった気づきなどが生まれたため、他のインターンとは異なる学習型インターンシップとしての魅力を十分に感じた。
- 働くということについて、しっかり学習することができた。自己理解が深まったし、将来の展望も明るくなったように感じる。能力の向上にもつながった。
- 自分ができることを見つけることができた。

- 業務を遂行していくプロジェクトなのかと当初は思っていたが、実際は、「人生そのもの」について考えさせられることが多くて、今の生き方とこれからの生き方について自分を深く見つめなおす機会を与えて下さり、期待に応えるものという言葉では表しきれない何かを手に入れた気がします。
- みんなで真剣に一つのことに取り組めた。
- 自分で1からプロジェクトを決めることで、自分の力量をはかることができてよかった。
- プロジェクトの中の作業、その意味について丁寧に解説し、進めてくださった。
- 講義内容等はとてもよかったと思いますし、プロジェクトプログラムの内容の中には難しいものもありましたが、どちらかと言えば満足しています。しかし、個人の総合的な感想としては思ったより辛かったです。
- 受け入れ先の仕事をあまり理解できなかった
- もう少しビジネスマナーなど社会人に必要なスキルについての講座があれば良かった。
- なにかを変えたいという面ではやってよかったなと思いました。色々課題などが明確にもなったので、少し不完全燃焼ですが、意見交流などの機会があったので、個人的には得られたものが多かったのです。
- 自分の課題や成長に気づくきっかけになりましたが、受け入れ先との連携が難しく、力を十分に発揮できないところがあった。
- 途中でもっと、進捗などではなくインターン生の気持ち、どう思っているかを聞いて欲しかった。

●事務局について



《ビジネスコース／パブリックコース》

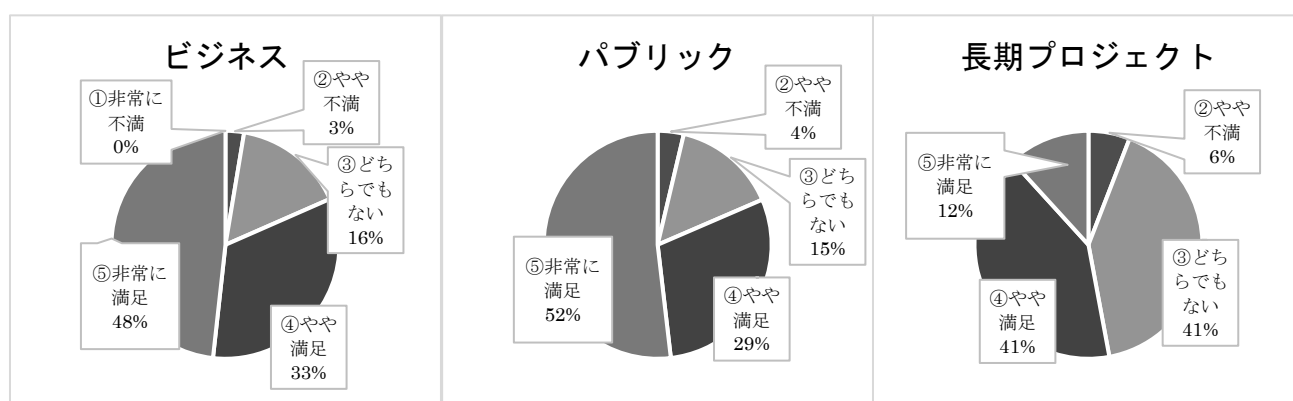
- どんな急用も即座に対応してくれ、インターン先との橋渡しもしてくださりとても助かりました。
- 電話とメール両方で連絡ができ、困ったことがあってもすぐに解決できた。
- 提出物や連絡事項を丁寧に指示してくださったので、安心して、実習に臨むことが出来たと思います。
- お知らせメールやメール送信完了メールが有難かったです。
- 実習前日にコロナ感染し、不安な気持ちでありましたが、丁寧に対応していただきとても助かりました。ありがとうございました。
- 私は疑問が多い性格なので、事務局に頻繁に質問させて頂いたことがあった。しかし、いつも丁寧に接して頂いたので、私はより安心して実習していくことが出来た。

- 提出物などをメールで送った際、多くのメールが届いて、お忙しいとは思いますが、何が一言くらい返信して欲しいです。自分が送ったメールがちゃんと届いているのか不安なので、何か 1 つアクションが欲しいです。
- 事務局と受け入れ先の情報共有に少し時間がかかると思う。

《長期プロジェクトコース》

- メールでの対応が非常に早く、質問や困りごとにも迅速に対応していただきました。
- 質問や相談等にとっても丁寧に回答して下さったり、悩みなどの話を親身になって聞いて下さったりしてとても支えになりました。
- 円滑な連絡と準備をしていただきありがとうございました。
- 様々な事務作業を通して、適宜インターン生を支えてくださったので、とても心強かった。
- 事務局の方に関しては遅い時間まで、本当に一生懸命だったのが伝わっていたので感謝しかありません。

●コーディネーターについて



《ビジネスコース／パブリックコース》

- 実習経験の話を、一人一人とても丁寧に聞いてくださいました。また、実習への不安がある中で、相談しやすい雰囲気だったことが安心につながりました。
- 事前レポートを個別に何度も細かい部分まで添削していただいたのが、とてもよかった。自分では気づかない間違いや読みやすい工夫を教えてもらい、実習先に満足のいくレポートを提出することができた。
- コーディネーターの方には、インターンシップ前の学習からインターンシップが終わるまでの間に多くのアドバイスを頂き、それによってインターンシップがよりよいものになったと感じた。
- 事前学習会や実習中の面談、事後学習会など、学生に寄り添った指導をしてくださったので、心強かったです。
- ビジネスルールや、適切な話し方について、丁寧にご指導をしてくださった。話し方やパワーポイントなど、褒めてくださることが多く、嬉しくて自信になった。反対に、間違っていることはしっかり注意して下さったり、曖昧な話は深掘りしてくださったり、自分の足りない部分にも気づくことができた。

- ゼミクラスでは事前レポートなどのサポートもしていただき全体的にプログラムが進めやすくやりやすかった。また、ゼミクラス生同士それぞれでもコミュニケーションが取れるよう zoom でもブレイクアウトルームで話し合う機会を設けていただいたため、インターンシップが始まる前の時点で同じインターン先のクラス生ともある程度仲を深めることができ、スムーズにインターンシップに参加することができた。
- 心配事がある際などに親身に話を聞いてくださり、とても心強かった。明るく前向きにゼミを引っ張ってくださり、大変感謝している。
- 学生たちが発言しやすい空気を作っていただき、ゼミクラスでのディスカッションがスムーズに行えた。感謝しております。
- コーディネーターには様々な方がいて、自分が学んでいる分野のことも交えながら説明をしてくださるので、参考になった。また、私達を担当してくださったコーディネーター様は事前学習レポートの指導も良くしてくださったので助かった。
- 少し、行き詰った時にはアドバイスなどをくれたので自分の方向性をしっかり認識して実習に取り組みました。
- 非常にわかりやすい指導でした。ありがとうございます。実習先が 1 人で他大学の人と話す機会が少なかったのが少し残念でした。
- ゼミクラスごとに事前学習レポートの指導があったり、実習経験交流会での発表のやり方が少し違っていたりコーディネーターの指導方法が異なっていたので、難しいかとは思いますが、統一したらクラスごとの格差がなくなり、より良いのではないかと思います。

《長期プロジェクトコース》

- 自分たちが行き詰まった時に、新しい視点でプロジェクトに対する意見をいただくことができたので、よかった。
- 的確なところでサポートしていただきました。
- 私たちの意見を尊重してくださりありがとうございました。
- インターン生の意見を大切に、時々アドバイスをくださる距離感がよかった。
- 非常に興味深く、普段とは違う経験をさせていただきました。もう少しアドバイスをいただくことや深く関わる機会があれば、より良い活動になったと思います。
- 大切なことを教わりました。ただはじめの頃は、私たちの活動を見ているのかどうか分からず、不安に思うことがありました。もう少し身近な存在であると更に接しやすかったと思います。
- 最初の方は、少し見放されているような感じが気持ちだった。あえて、あまり口を出さないというスタンスだったと思うが、それでもコミュニケーションというところで、もう少しお話をしておきたかった。序盤のつまずきに対して、もう少しフォローを頂いておけば、受入先と学生の認識の齟齬が少し解消していたかな？と思う。

第5章 今後の課題

1 インターンシップをめぐる状況

財団によるインターンシップ・プログラムは、1998年度から23年にわたり大学と連携し、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育プログラムとして充実を図ってきた。

近年、インターンシップの社会的普及の中で、全国の大学、企業・団体がそれぞれ独自にインターンシップ・プログラムを展開し、企業・団体による採用を目的としたインターンシップの増加が顕著となっている。そうした中、一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」からの提言を受けて、文部科学省、厚生労働省、経済産業省は「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」を本年6月に一部改正した。この基本的考え方では、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が四つの類型に整理され、要件を満たすインターンシップに限り、2023年度以降に企業団体が学生情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。これは大学等におけるキャリア形成の取り組みの位置づけを変えるものではないが、産業界と大学等がインターンシップ等の取り組みに積極的に関与し、推進していくことを求める内容となっている。

財団が実施するインターンシップ・プログラムは、基本理念に掲げる通り、大学教育の一環としての産官学地域連携による教育プログラムである。採用に直結するものとは異なり、「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を教育目標としている。インターンシップの位置づけが多様化している中であるからこそ、本プログラムの位置づけと目標を学生、受入先企業・団体、大学に対してより明確に発信していく必要がある。

2 財団における今後に向けた取組

本インターンシップ・プログラムは、財団の中期計画第5ステージプラン（2019～2023年度）の柱のひとつ「大学間連携による学びの提供と充実」を推進する施策に位置づけられている。2022年度には28大学から285名の学生の出願があり、大学間連携のインターンシップ・プログラムとしては全国で最大規模の取り組みとなっている。

一方、プログラムを取り巻く状況は大きく変化している。新型コロナウイルスの影響により、2020年度はプログラムの中止を余儀なくされ、2021年度からはビジネスコース／パブリックコースの事前・事後講義をオンライン実施に変更している。また、社会環境の変化とともにプログラムに参加する学生の価値観、学習スタイル、受入先から提示される実習内容・課題・方法などにも変容が見られる。そうした中、学生の成長と受入先企業団体の活性化に資するプログラムをめざし、企業団体との接点を拡大し、学生の成長目標と受入先の目標・課題とのつながりをさらに深めていく協働の取り組みを強化していく必要がある。また、受入先の拡充、相互のネットワーク形成をめざし、業種等を越えて複数の受入先が実習プログラムを企画するコラボレーションインターンシップ、京都の地域産業に関係する各種団体との連携などの取り組みの推進について、財団の次期中期計画の策定とともに検討を進めている。

資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について

1) コース別 出願者数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	255	142	129	97	66	68.0%
パブリック		65	63	32	25	78.1%
長期プロジェクト	30	28	22	13	10	76.9%
合計	285	235	214	142	101	71.1%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	12	4.2%	7	3.0%	58.3%
2年次(回生)	73	25.6%	60	25.5%	82.2%
3年次(回生)	199	69.8%	167	71.1%	83.9%
4年次(回生)	0	0.0%	0	0.0%	-
5年次以上(回生)	0	0.0%	0	0.0%	-
大学院生	1	0.4%	1	0.4%	100.0%
合計	285	100.0%	235	100.0%	82.5%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	92	32.3%	72	30.6%	78.3%
女性	193	67.7%	163	69.4%	84.5%
合計	285	100.0%	235	100.0%	82.5%

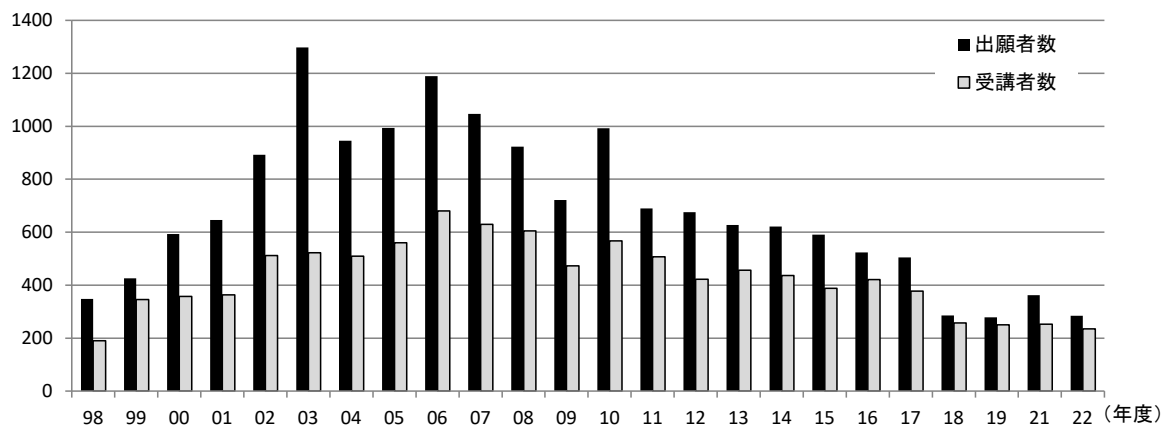
4) 大学別 出願者数

大学名		出願者数	実習許可者数	大学名		出願者数	実習許可者数	
加盟大学	京都大学※大学院生含む	4	4	加盟大学	京都文教大学	31	26	
	京都教育大学	1	1		京都文教短期大学	0	0	
	京都工芸繊維大学	3	3		京都薬科大学	0	0	
	京都市立芸術大学	0	0		嵯峨美術大学	1	1	
	京都府立大学	8	5		嵯峨美術短期大学	0	0	
	京都府立医科大学	0	0		種智院大学	0	0	
	福知山公立大学	1	1		成安造形大学	7	6	
	池坊短期大学	0	0		同志社大学	24	20	
	大谷大学	16	15		同志社女子大学	3	3	
	京都医療科学大学	0	0		花園大学	3	3	
	京都外国語大学	6	4		佛教大学	5	3	
	京都外国語短期大学	1	0		平安女学院大学	0	0	
	京都華頂大学	0	0		明治国際医療大学	0	0	
	華頂短期大学	0	0		立命館大学	26	19	
	京都看護大学	0	0		龍谷大学	44	31	
	京都経済短期大学	1	1		龍谷大学短期大学部	0	0	
	京都芸術大学	0	0		大阪医科大学	0	0	
	京都光華女子大学	28	26		京都情報大学院大学	0	0	
	京都光華女子大学短期大学部	1	1		放送大学 京都学習センター	0	0	
	京都産業大学	21	18	非加盟大学	愛媛大学	0	0	
	京都女子大学	33	32		岡山大学	0	0	
	京都精華大学	2	1		神戸大学	2	2	
	京都西山短期大学	0	0		滋賀大学	0	0	
	京都先端科学大学	4	2		奈良女子大学	0	0	
	京都橘大学	5	4		奈良県立大学	0	0	
	京都ノートルダム女子大学	3	2		関西学院大学	1	1	
	京都美術工芸大学	0	0		近畿大学	0	0	
出願者総数						285	235	

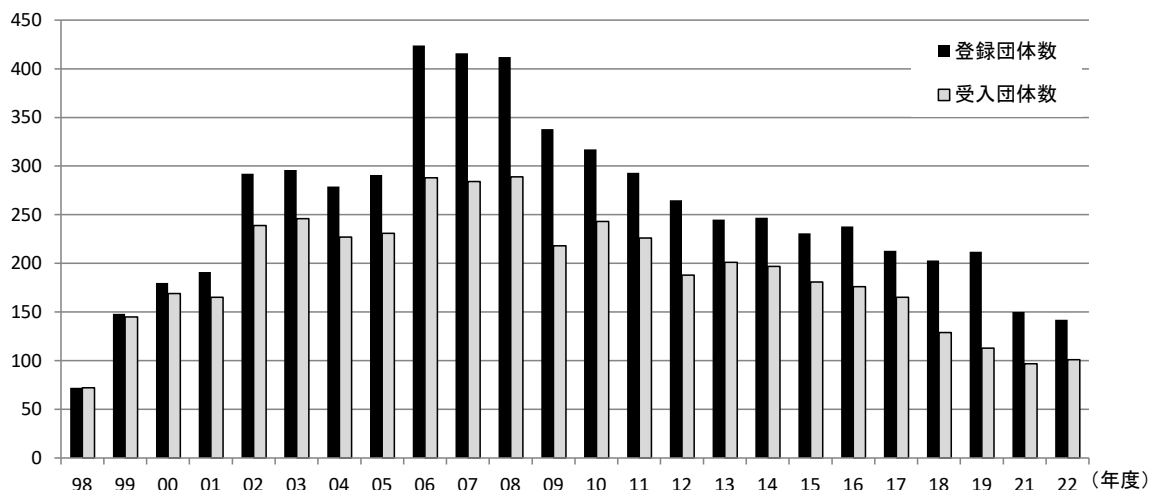
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター（CO）数の推移

年度	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	21	22
出願者数	348	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505	286	279	362	285
受講者数	190	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378	257	250	253	235
登録団体数	72	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213	203	212	150	142
受入団体数	72	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165	129	113	97	101
CO人数	9	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33	24	24	22	24

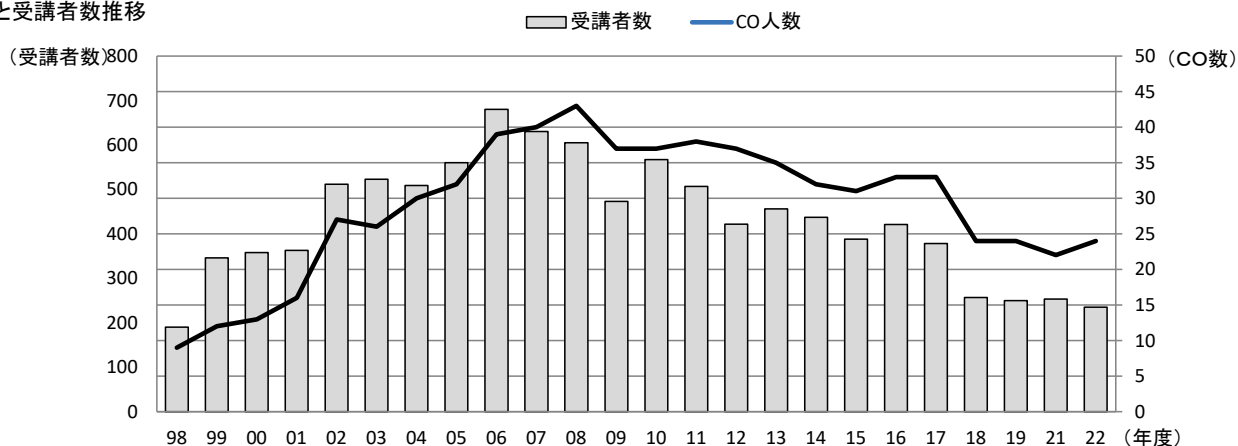
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講者数推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

ビジネスコース

■製造(食品)

株式会社石田老舗
亀屋良長株式会社
丹波ワイン株式会社
株式会社西利

■製造(電気機械設備)

株式会社カシフジ
金井ホールディングス株式会社
寺崎電気産業株式会社
日工電子工業株式会社
パナソニックコネクト株式会社
現場ソリューションカンパニー
由利ロール株式会社
和晃技研株式会社

■製造(半導体・精密機器)

株式会社魁半導体
株式会社積進

■製造(その他)

株式会社セイワ工業
株式会社箭木木工所

■情報・通信・IT

協和テクノロジーズ株式会社
株式会社クラックスシステム
大和電設工業株式会社
株式会社ディレクターズ・ユニブ
株式会社ブリッジコーポレーション

■不動産・建築設計

株式会社インテリアホソイ
京都駅ビル開発株式会社
株式会社空間デザイン
株式会社クレバー
有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
株式会社長栄
株式会社莫設計同人
株式会社フラット・エージェンシー
株式会社 プロミネンス
株式会社ロイヤル住建
株式会社ローバー都市建築事務所

■マスコミ・広告・印刷・出版

アートム株式会社
株式会社あおぞら印刷
株式会社京都通信社
株式会社文化時報社
宮川印刷株式会社
株式会社ユニオン・エー
株式会社らくたび

■デザイン

株式会社ジイケイ京都

■金融・証券・保険

株式会社葵総合保険
株式会社エスアールエム
SMBC日興証券株式会社
西村証券株式会社
株式会社ラクール保険事務所

■士業(法律・会計事務所)

特許業務法人京都国際特許事務所
こもだ法律事務所
弁護士法人中村利雄法律事務所

■コンサルティング・調査・研究

サンスイコンサルタント株式会社
しあわせ総合研究所グループ
株式会社地域計画建築研究所
株式会社地域未来研究所

■人材ビジネス

株式会社OVO

■医療・福祉

公益社団法人
京都市身体障害児者父母の会連合会
社会福祉法人京都福祉サービス協会
社会福祉法人清和園
京都市久世特別養護老人ホーム
医療法人社団 千春会
社会福祉法人同胞会 DOHOグループ

■エンタテインメント

ビーイングホールディングス株式会社

■レジャー・アミューズメント

オーパルオブテックス株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社
(志摩スペイン村)
Y'sスポーツガーデンパデル京都

■ブライダル

株式会社エイジェイクリエーション

■観光・旅行

京都新聞企画事業株式会社
(京都新聞旅行センター)
西陣くらしの美術館富田屋
有限会社丸益西村屋

■ホテル・旅館

ウェスティン都ホテル京都
株式会社国華荘 びわ湖花街道
里湯昔話 雄山荘
柊家株式会社

■小売・販売・専門店

京都生活協同組合
生活協同組合コープしが
株式会社花工房

■商社・卸売

三共精機株式会社
株式会社ヒトミ
富士フイルムビジネスイノベーション
ジャパン株式会社京都支社

■安全・メンテナンス・清掃

株式会社アイアム
株式会社ワタナベ美装

■運輸・物流

株式会社塚腰運送
(Tsukagoshiグループ)

ビジネスコース

■教育(学校・大学等)

大谷大学

京都外国語大学 京都外国語短期大学

京都光華女子大学・

京都光華女子大学短期大学部

京都産業大学

京都女子大学

京都精華大学

京都国際マンガミュージアム

京都先端科学大学

京都文教大学

社会福祉法人熊千代会

こぐま上野保育園

公益財団法人大学コンソーシアム京都

同志社大学

佛教大学

立命館大学

学校法人龍谷大学

■その他

京都工業株式会社

公益財団法人

京都市音楽芸術文化振興財団

一般社団法人京都中小企業家同友会

公益財団法人びわ湖芸術文化財団

株式会社ユメコム

パブリックコース

■官公庁

綾部市役所

宇治市役所

近江八幡市

大津市

亀岡市役所

京田辺市

京都市

京都府教育庁指導部社会教育課

京都府庁

滋賀県庁

摂津市

長岡京市役所

彦根市

文化庁 地域文化創生本部

防衛省 自衛隊京都地方協力本部

河原町募集案内所

宮津市役所

守山市役所

野洲市

栗東市役所

■非営利組織

一般財団法人大阪教育文化振興財団

特定非営利活動法人気候ネットワーク

特定非営利活動法人京都藝文交流協会

公益財団法人京都市国際交流協会

京都市野外活動施設 花背山の家

公益財団法人京都市ユースサービス協会

一般財団法人京都ユースホステル協会

特定非営利活動法人

クリエイター育成協会

公益財団法人公害地域再生センター

(あおぞら財団)

特定非営利活動法人子育て支援

コミュニティおふいすパワーアップ

特定非営利活動法人子ども自立の郷

ウォームアップスクールここから

特定非営利活動法人

とよなか市民環境会議アジェンダ21

認定NPO法人びわこ豊穡の郷

長期プロジェクトコース

株式会社インサイトハウス

一般社団法人Impact Hub Kyoto

株式会社大槻シール印刷

関西巻取箔工業株式会社(KANMAKI)

特定非営利活動法人気候ネットワーク

特定非営利活動法人きょうとNPOセンター

特定非営利活動法人クリエイター育成協会

チャレンジつねよし百貨店実行委員会

株式会社ディアライブ

有限責任事業組合まちとしごと総合研究所

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば

株式会社ユニオン・エー

株式会社ワイングロッサリー

資料4. 長期プロジェクトコース講義概要

全体の流れ		日程	コマ	時間	講義名	講義形式	内容	会場		
プロジェクト実施期間	プロジェクトの導入	6/16 (木)	第1講	18:30～ 19:00	オリエンテーション(プログラムの概要)	全受講生	プログラムの概要、諸注意、事務連絡、担当Coの紹介。 各プロジェクトごとに自己紹介を行う。	キャンパス プラザ京都		
				19:00～ 19:30	プロジェクトのテーマの共有と チーム形成		各プロジェクトの課題と目的を共有し、チーム形成に繋げる。			
			第2講	19:40～ 21:10						
	受入先事前訪問期間:6月17日(金)～6月22日(水)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打ち合わせを行い、プロジェクトについて指導、アドバイスを受ける。 (プロジェクトごとに設ける)									
	プロジェクトの形成	6/23 (木)	第3講	18:30～ 19:30	コミュニケーショントレーニング	全受講生	チーム形成のためのコミュニケーション能力等について、専門講師による講習を受ける。	キャンパス プラザ京都		
			第4講	19:40～ 21:10	プロジェクトの形成 (ワークシートの進め方)	全受講生	プロジェクトの形成と管理の概要を理解する。(ワークシート①から④までの理解)			
		6/30 (木)	第5講	18:30～ 19:30	特別講演(現代仕事論)	全受講生	外部講師を招き、現代社会にふさわしい働き方を考える。	キャンパス プラザ京都		
			第6講	19:40～ 21:10	プロジェクトの形成 (ワークシートのブラッシュアップ)	各プロジェ クト	目標の明確化に向け、ワークシートに取り組み、進捗を共有する。			
		7/7 (木)	第7講	18:30～ 19:30	プロジェクトの管理	全受講生	コーディネーターからの講義を通じて、プロジェクト管理の思考法を学ぶ。	キャンパス プラザ京都		
			第8講	19:40～ 21:10	プロジェクトの形成 (ワークシートのブラッシュアップ)	各プロジェ クト	ワークシートに取り組む。			
		7/14 (木)	第9講	18:30～ 19:30	プロジェクトの形成 (ワークシートのブラッシュアップ)	各プロジェ クト	ワークシートに取り組む。	キャンパス プラザ京都		
			第10講	19:40～ 21:10	プロジェクト・マネジメント (進捗の共有)	全受講生	他のチームの受講生との意見交換を行い、プロジェクト活動の完成度を高める。			
		7/21 (木)	予備日	18:30～ 19:30	※夏期休暇前に講義休止が発生した場合の予備日				キャンパス プラザ京都	
			予備日	19:40～ 21:10						
		夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。								
		9/1 (木)	第11講	16:50～ 17:50	プレゼンテーショントレーニング (映像コンテンツの活用法)	全受講生 各プロジェ クト	プロジェクトの夏期活動中間報告に向けて映像コンテンツの活用法を学ぶ。	キャンパス プラザ京都		
			第12講	18:00～ 19:30	サマーセッション プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動中間報告)		映像を制作し、中間報告を行う。			
			第13講	19:40～ 21:10						
		夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。								
	プロジェクトの振り返り	9/29 (木)	第14講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (ワークシートのブラッシュアップ)	各プロジェ クト	ワークシート①から④までの見直しと、ブラッシュアップを行う。	キャンパス プラザ京都		
			第15講	19:40～ 21:10						
		10/6 (木)	第16講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (受入先とのコラボ)	各プロジェ クト	受入先とともにワークシートを作りこむ。	キャンパス プラザ京都		
			第17講	19:40～ 21:10						
		10/20 (木)	第18講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト・プレゼンテーションにむけたプレゼンテーション準備)	各プロジェ クト	プロジェクト・プレゼンテーションにむけた準備を行う。	キャンパス プラザ京都		
			第19講	19:40～ 21:10						
		10/27 (木)	予備日	18:30～ 19:30	※夏期休暇後に講義休止が発生した場合の予備日				キャンパス プラザ京都	
			予備日	19:40～ 21:10						
	プロジェクト報告・評価	11/5 (土)	第20講	10:40～ 12:10	プロジェクト・マネジメント (自己評価:プログラム受講を通して自己の変化を振り返る)	全受講生	プログラム受講を通じた自己の変化を振り返る。	キャンパス プラザ京都		
			第21講	13:00～ 14:30	プロジェクト・プレゼンテーション 修了式		約5ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに活動報告を行う。全体で、それぞれのプロジェクトの到達点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明らかにする。			
			第22講	14:40～ 15:40						
			第23講	15:50～ 17:50						

- 講義は感染症の拡大状況他、その他の社会状況によりキャンパスプラザ京都(対面)またはオンライン(ZOOM)にて実施します。
- 7月、8月、9月の毎週少なくとも1回は受入先または実習現場(オンラインを含む)での活動を行います。
- 学習レポートおよびプロジェクト報告書 提出期間:11月5日(土)～10日(木) ※最終日の締切は 16:00 です。(時間厳守)

資料5. 長期プロジェクトコース プロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講者数	コーディネーター
特定非営利活動法人 クリエイター育成協会	【「福祉×IT×地域」で障害者が安心して働ける世の中づくりプロジェクト】 私たちは、障害者の方々が持つスキルを活かし、企業や地域にとって欠かせない存在となれるようサポートしています。事業所に通う方々の魅力と、社会のニーズをマッチさせるためにできることは何か?一緒に考え、広い視野でアイデアをまとめてください。何かで一步を踏み出してみたいそんな学生さんもぜひ参加ください!	2	小辻 寿規
有限責任事業組合 まちとしごと 総合研究所	【SDGsの観点からまちの活動団体さんの次の一步を応援・提案する支援プロジェクト】 下京いきいき市民活動センターは、「SDGsとダイバーシティの観点でまちやシゴトと活動をつなげるダイバーシティズン・センター」です。活動団体さんへSDGsの観点から活動が一步前へ進むような提案や活動を共に考え、伴走していただくThink&Doプロジェクトを共に実施していきましょう!	4	立命館大学 共通教育推進機構
株式会社デアライブ	【京都のインバウンド観光情報メディアコンテンツ拡充及び新規ソリューション企画】 外国人観光客への動画インタビューサイト「Traveler'sVoiceofKyoto」のコンテンツ拡充及びPR業務がプロジェクトです。企画やマーケティングの世界は用意されている正解はありません。是非積極的に意見やアイデアを発信してください。	2	坂本 清彦
関西巻取箔工業 株式会社 (KANMAKI)	【KANMAKIではじめる 新しい発信の教室】 大切にしているコトがどうすれば人のココロに響くかを、一緒に考えて発信するプロジェクト。自分たちの魅力や特長をどうやって発信していくか、主に広報分野の領域で、私たちと一緒に考働していただきます。	4	龍谷大学 社会学部
特定非営利活動法人 気候ネットワーク	【脱炭素社会と再生可能エネルギー100%実現に向けた調査・情報発信】 脱炭素社会の実現に向けて「再生可能エネルギー100%実現」「脱炭素地域づくり」に関する情報収集・発信、調査研究、イベント開催、広報等を行います。新しいスキルを身につけ、構想力・創造力・企画力の向上につながる体験をしてください!	2	◎桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部
株式会社インサイトハウス	【きょうのやましなさんプロジェクト】 山科を歩き回り、子供から大人、お年寄りまで様々な方の想いやストーリーを聴き、集め、インタビュー記事として形にして、HP、Facebook、フリーペーパー、回覧板、絵本などを通して地域の人々向けに発信。まずは「自身が楽しむ」をモットーに活動していただきます。	3	築地 達郎 龍谷大学 社会学部
株式会社 大槻シール印刷	【女性が手に職をもって輝ける職場づくり】 当社は「まちのシール屋さん」。女性が70%を超える印刷業では珍しい会社です。「職」とは、時間をかけて積み重ねてゆくものです。様々なハードルでも、離職せずに働き甲斐をもって続けられる会社づくりの提案を期待しています。	3	西村 雅信 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 デザイン・建築学系
チャレンジ つねよし百貨店 実行委員会	【日本一小さな百貨店で考える持続可能な暮らし】 京都府北部、京丹後市にある【日本一小さな百貨店】。商店、コミュニティセンターとしての百貨店をベースに、お客様や地域の方との交流を通じ、持続可能な暮らし、理想とするコミュニティのあり方を考えます。具体的な活動内容は実習生の専攻や希望を聞きながら決定します。	2	野村 実 大谷大学 社会学部
一般社団法人 Impact Hub Kyoto	【地域フィールドラボプロジェクト】 花脊は、千年以上の歴史を持つ、祇園祭のちまき笹の採集地です。環境と共生する営みで、世界中から注目されている里山です。ここをフィールドに自然と共生する地域の方々から学びながら、さまざまな異分野の人々と一緒に、地球環境が持続し、地域が発展する、これからの森づくりを実践することができます。フィールドラボ花背に参加してみませんか!	2	○吉田 咲子 京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部
株式会社ユニオン・エー	【学生向けの就職情報フリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」認知向上プロジェクト】 新卒・第二新卒の若者に向けた就職情報フリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」を企画・発行しています。もっと多くの学生の手にとってもらえるような媒体にするにはどのようにすればよいか一緒に考えたいです!一緒に働けるのを楽しみにしています。	4	

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料6. ビジネスコース／パブリックコース講義概要

日程	コマ数	時間	講義名	講義形式	内容
6/18 (土)	第1講	10:00～10:30 (30)	オリエンテーション①: プログラム参加にあたって	全受講生	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え等を説明します。
		10:30～11:00 (30)	リスクマネジメント講習①: 事前学習に向けての心構え		インターンシップ・プログラムを受講する上でのリスクマネジメントを学びます。
	第2講	11:20～12:50 (90)	クラスの相互理解	クラス	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をします。
	第3講	13:50～15:20 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定①	クラス	グループディスカッションを中心として、仮説と実習目標設定のための意見交換を行います。
	第4講	15:30～16:30 (60)	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。オンラインでのコミュニケーションの取り方を学びます。
	第5講	16:40～18:10 (90)			
受入先との事前打合せ(初顔合わせ):6月23日(木)～7月8日(金)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打合せを行い、実習内容・期間の確認、事前学習レポート作成に向けてアドバイス等の指導を受ける。					
7/2 (土)	第6講	10:00～11:30 (90)	業界と社会に対する学習①	クラス	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をもとに受入先について探求し、事前学習レポート作成のポイントを学び、内容を深めます。
	第7講	11:40～12:40 (60)	業界と社会に対する学習②		
	第8講	13:40～15:10 (90)	スキルアップトレーニング	クラス	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。オンラインでのグループワーク、コミュニケーションの取り方を学びます。
	第9講	15:20～16:50 (90)			
7/9 (土)	第10講	10:00～11:30 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定②	クラス	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目標を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。
	第11講	12:30～14:00 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定③		
	第12講	14:10～15:40 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定④		事前学習レポートの内容をより深めます。
	第13講	16:00～17:00 (60)	リスクマネジメント講習②: 実習・事後学習に向けての心構え	全受講生	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。実習にあたっての準備、確認・注意事項を確認します。 レポート提出、実習中、事後学習に必要なポイント説明、事務連絡を行います。
		17:00～17:30 (30)	オリエンテーション②: 実習・事後学習に向けての事務連絡		
7/16 (土)	予備日	10:00～18:00	※事前学習日に講義休止が発生した場合の予備日		
実習の実施(原則として8月1日(月)～9月16日(金)の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。)					
9/10 (土)	補講日	9:00～10:30 (90)	※クラスによって実施される場合があります		
		10:50～12:20 (90)			
9/17 (土)	第14講	10:00～11:00 (60)	実習経験の共有①	クラス	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。
	第15講	11:10～12:10 (60)	実習経験の共有②		
	第16講	13:10～14:40 (90)	実習経験の共有③		実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をまとめます。
	第17講	15:00～16:30 (90)	実習経験交流会	クラス グループ	実習を通して学んだことをゼミごとに発表し、他のゼミの発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学習レポートの内容に反映させます。
	第18講	16:40～17:40 (60)	実習経験の振り返り／全体講評／修了式		他のクラスからのコメントから各クラスで振り返りを行った後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。
9/24 (土)	予備日	10:00～18:00	※事後学習日に講義休止が発生した場合の予備日		

■事前学習レポート提出期間:7月9日(土)～16日(土)

■事後学習レポート提出期間:9月17日(土)～10月1日(土) ※事前/事後学習レポート提出最終日の締切は 16:00 です。(時間厳守)

資料7. ビジネスコース／パブリックコースコーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講者数	氏名	大学	所属等
ビジネス	教育(学校・大学等)	B1	10	浅若 裕彦	大谷大学	国際学部
	運輸・物流 安全・メンテナンス・清掃 小売・販売・専門店 エンタテインメント コンサルティング・調査・研究	B2	12	加藤 康	京都経済短期大学	経営情報学科
	不動産・建築設計	B3	11	嘉本 伊都子	京都女子大学	現代社会学部
	教育(学校・大学等)	B4	11	岸岡 洋介	京都外国語大学	外国語学部
	レジャー・アミューズメント 観光・旅行	B5	12	小橋 晶	同志社大学	経済学部
	製造(電気機械設備) 製造(半導体・精密機器) 製造(その他) 商社・卸売 その他	B6	13	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	製造(食品)	B7	13	中道 一心	同志社大学	商学部
	デザイン マスコミ・広告・印刷・出版 非営利組織	B8	11	濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	情報・通信・IT コンサルティング・調査・研究	B9	13	増田 将伸	京都産業大学	共通教育推進機構
	マスコミ・広告・印刷・出版 ホテル・旅館 非営利組織	B10	12	丸山 一芳	京都橘大学	経営学部
	金融・証券・保険 士業(法律・会計事務所)	B11	13	○ 三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
	金融・証券・保険 人材ビジネス 教育(学校・大学等) 医療・福祉 その他	B12	14	三保 紀裕	京都先端科学大学	経済経営学部
パブリック	官公庁	P1	13	○ 黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部
	官公庁	P2	13	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学 短期大学部	キャリア形成学部
	官公庁 非営利組織	P3	11	平本 毅	京都府立大学	文学部
	官公庁 非営利組織	P4	13	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	官公庁	P5	12	松村 千鶴	京都府立大学	教職センター

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、インターンシップが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1.実施日

ビジネスコース／パブリックコース
長期プロジェクトコース

2022年6月16日～6月18日／2022年9月17日～10月1日
2022年6月14日～6月16日／2022年11月5日

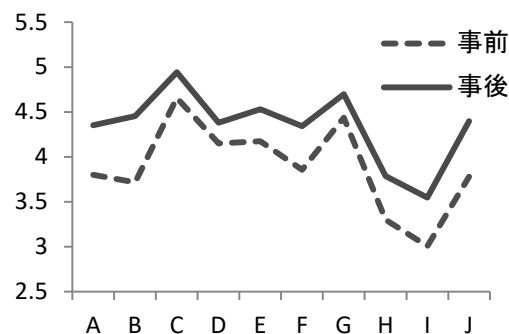
2.回答数

	実習許可 者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	142	199	96.1%	168	81.2%
パブリックコース	65				
長期プロジェクトコース	28	28	100.0%	24	85.7%
合 計	235	227	96.6%	192	81.7%

表-2. 意識調査結果(比較)

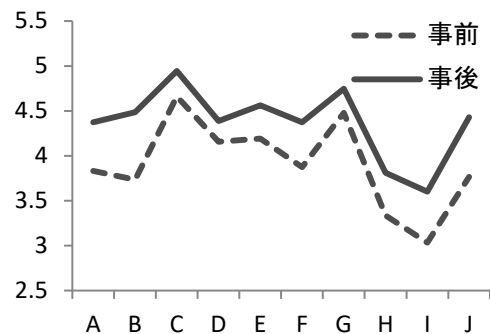
<全体>

全体の結果については、就業体験型のビジネスコース／パブリックコースの変化を大きく反映するものであるが、両コースの共通点として「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きい。このことから、インターンシップへの参加により、社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



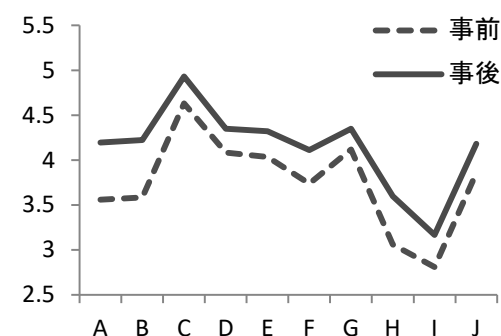
<ビジネスコース／パブリックコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」及び「自己主体性」の項目にあたるI「社会へのコミット感」、J「自己理解」の変化が大きい。これらは、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしたと考えることができる。



<長期プロジェクトコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。事前調査と事後調査の変化については、特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が大きな変化をもたらしたと考えることができる。



資料8. 受講生意識調査集計結果
表 -1. 意識調査の指標と平均点

			実習前						実習後					
			ビジネス・パブリック			長期プロジェクト			ビジネス・パブリック			長期プロジェクト		
			平均		平均	平均		平均	平均		平均	平均		平均
就職 レディ ネス	A	職場の人間関係への理解	4.41		4.18	4.38		4.38	4.89		4.83	4.88		
			3.60		3.25	3.56		3.56	4.07		4.08	4.07		4.35
			3.49		3.25	3.46		3.46	4.17		3.67	4.11		
			4.24		3.96	4.20		4.20	4.76		4.58	4.74		
就 職 レ ディ ネス	B	組織で働くことへの理解	3.72		3.46	3.69		3.69	4.48		4.29	4.45		4.45
			3.24		3.32	3.25		3.25	4.22		3.79	4.17		
			5.03		4.86	5.01		5.01	5.04		5.00	5.03		
			3.96		3.93	3.96		3.96	4.80		4.54	4.77		4.94
有 能 感	C	学生と社会人の区別	4.98		5.11	5.00		5.00	5.00		5.25	5.03		
			3.54		3.50	3.54		3.54	4.29		4.00	4.26		
			4.67		4.36	4.63		4.63	4.79		4.96	4.81		4.38
			4.26		4.39	4.28		4.28	4.08		4.08	4.08		
有 能 感	D	ジェンダー問題への気づき	4.21		4.21	4.21		4.21	4.48		4.38	4.47		
			4.66		4.46	4.64		4.64	5.00		4.54	4.94		4.53
			3.71		3.43	3.67		3.67	4.20		4.04	4.18		
			3.71		3.79	3.72		3.72	4.37		3.88	4.31		
有 能 感	E	実行力	3.94		3.61	3.90		3.90	4.35		4.04	4.31		4.34
			3.96		3.82	3.94		3.94	4.40		4.42	4.41		
			4.26		3.82	4.20		4.20	4.58		4.29	4.54		
			4.13		3.79	4.08		4.08	4.56		4.08	4.50		4.70
有 能 感	F	環境適応力	5.06		4.75	5.02		5.02	5.11		4.67	5.05		
			3.56		3.43	3.55		3.55	3.86		3.33	3.79		
			3.28		3.04	3.25		3.25	3.50		3.58	3.51		3.78
			3.17		2.71	3.11		3.11	4.08		3.88	4.05		
自己主体性	G	柔軟な物事の見方	3.35		2.82	3.29		3.29	3.90		3.25	3.82		
			2.34		2.50	2.36		2.36	2.79		2.71	2.78		3.55
			3.41		3.11	3.37		3.37	4.12		3.54	4.05		
			4.17		4.21	4.18		4.18	4.82		4.79	4.82		4.40
自己主体性	H	生活規律	3.88		3.93	3.89		3.89	4.51		4.25	4.47		4.40
			3.25		3.43	3.27		3.27	3.96		3.50	3.91		
自己主体性	I	社会へのコミット感												
自己主体性	J	自己理解												

2022 年度インターンシップ・プログラム実施報告書

発行日 2022 年 12 月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
教育事業部 インターンシップ事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

インターンシップ・プログラムポータルサイト

<http://consortiumkyoto-internship.jp/>

公益財団法人大学コンソーシアム京都ウェブサイト

<https://www.consortium.or.jp/>
